

むら 中よも ひむろ いは 島本 御熊 を 杣松 見さとを たる おほ
 しは 重る 中狭 万あしびきのあらしふくよともいへり、山のおのへ 山のすその 山
 のとかげ常影と書、又跡陰 山かたつきて山のかた たきゝとる山をば、ふみる山と云、一説 日本
 紀やまをばむれといへり、山のたうげをば、こやのふるみちと云、一説 いはた、みは磐壘
 いはねふみは石根 いはかね石金と 皆しげき山也、はしたかのとぶ山は、きはめてふるき
 山也、

しゐは紅葉すと云、總てもみぢせぬ山なり、狭衣歌にも、せめて紅葉せぬよしによめり、古今如此
 多、

川 井 岸 水 道 はた 田 里 寺 風 嵐 おろし こしかせ 下つゆ 下風 櫻

柿 梨 ある 橘 ゆり 鳥 郭公 姫 人 伏 鳥 すけ かつ もり きは もと

口 加氣形 廻 かた かつら すみ こもり こえ かへり わけ衣 ひこ へ 中

〔和漢三才圖會五十六〕羽黒山略○中

按、大峯 和州 温泉 嶽 肥前 金毘羅 讚州 立山 越中 比叡 江州 比良 同 金剛山 和州 愛宕等之高山 不出詳

于其國下、凡深山幽冥之處、則有陰鬼、俗云天狗山神之類是也、而有硫黃之山、則火燃煙起、湧出温泉、
 其音甚者如泣如叫、或有似閉爭音者、猶浮圖所謂八大地獄、即稱之地獄、往昔小角泰澄行基之輩、好
 蹊山徑、棗叢林、且使山鬼、爲神社佛閣靈場、勸善懲惡之器也、齋戒可登、而秘山內之分野、禁漫語之、

〔倭名類聚抄山谷〕嶽 蔣飭切韻曰嶽高山名也、五角反、又作岳、訓與丘同、未詳、漢鈔云、美太

〔箋注倭名類聚抄山谷〕玉篇嶽岳同上、按說文、嶽古文作岳、云象高形、然則岳上非從丘也、按、丘訓乎

加、見下文、則岳不可與丘同訓、而古人誤訓岳爲乎加、神武紀國見丘、或作國見岳、萬葉集、此岳爾菜
 摘須兒、又神岳、皆訓乎加、其他尙多、故云訓與丘同、然丘岳徑庭、故源君云未詳、疑之也、山田本、昌平